



# 深山たかし

発行元：深山たかし後援会  
 上尾市大字上1774-7  
 048 (776) 0575  
 fukayama-sov@jcom.home.ne.jp  
 ホームページは検索サイト  
 ”深山たかし”で閲覧できます。

## 議会りポート

### 上平地区は

### 片田舎ではありません

#### 上平第三特定 土地区画整理の 経過及び効果

図書館移転に関連して議会の度に「何故、へんぴな上平に図書館本館を建設するのか」との発言が止まりません。

つい、半世紀前（昭和三十年代）までは、上尾市全域が田園風景が連続する農業中心の地域でした。上尾駅周辺が上尾市の中心であるとの主張に違和感があります。都市基盤整備は、長い時間を掛けて、地域

にお住まいの皆さんが協力しながら完成して行くものです。今回、上平地区がどのようにして発展してきたのか、土地区画整理事業の経過を引用して、質問しました。

【問い】 北上尾駅が昭和六十三年十二月十七日に開業に伴い、周辺の都市基盤整備の機運も盛り上がり、平成十年五月には上平公園、上尾市民球場が開設、平成十二年十一月にはPAP A ショッピング・アベニューがオープンし、徐々に暮らしやすい地

域に変貌してまいりました。

このような地域の移り変わりとして、区画整理事業によって、北上尾駅の乗降者数は、平成元年と平成二十六年を比較すると、二・六倍となつていくとのデータもあります。

一概に「都市基盤整備」と言っても地域の皆さんを始め、多くの皆様の協力支援が必要であり、言葉では言い表せないご苦労もあると思います。

【答え】 上平第三特定土地区画整理事業も完成の運びとなりましたことから、そのご苦労の一端をご紹介します。

上平第三地区のまちづくりにつきましては、昭和五十二年五月の地元説明会に始まり、三十五回に及ぶ説明会や打ち合わせ会、アンケート調査、区画整理だよ

り発行、権利者個別訪問など、地元での地道な合意形成の過程を経て、昭和六十一年四月に検討委員会が発足いたしました。

その後、九回の検討委員会が実施され、昭和六十三年七月に発起人会が発足、具体的な事業の説明会、関係機関との調整、協議、同意書の取りまとめを経て、平成元年十月に上平第三特定土地区画整理組合の設立総会が開催されました。

そして、本年に至るまでの十八年間に、組合の総会は六回、総代会は六十二回、理事会は三百六十五回を数え、初代理事長、故・須田義雄様をはじめ、関係され五十四名にのぼります。

事業計画では、土地の減歩率は二十四・九二パーセントとなり、百四十四戸の家屋移転を実施し、事業期間は

二十八年間に渡ったことから、組合役員の皆様、総代の皆様、組合員の皆様、そして地域住民の皆様のご負担、ご苦労は、いかばかりだったかと、改めて推察するところでございます。

その甲斐あって、四か所の公園が新設され、道路は、北上尾駅前から地区を東西に横断する幅員十二メートルの緑丘南線、南北に縦断する幅員十二メートルの西門前久保線、九メートルの西門前緑丘線、芝川を暗渠にして、その上に幅員十五メートルの街路を造りました。そして、車のスムーズなすれ違いができる、幅員六メートルの区画街路が、地区内を縦横に配置され、道路面積としては、二万六、〇四九平方メートルから、八万五、〇二五平方メートルに拡充されました。

北上尾駅から一キロメートルの、徒歩圏に位置しながら、事業開始当時はまだ、四〇五メートルの道路が、数本通っているに過ぎず、地区内の道路面積は、全体の六・六パーセントと非常に少ない状況でございますでしたが、区画整理事業により、道路面積の割合は三・三倍に増加し、二一・一パーセントとなりました。

このことにより、住環境はもとより、災害に強く、安心安全な町へと、飛躍的に向上したところでございます。事業はいつも順風満帆というわけにはいかず、バブル崩壊の影響を受け、借入金が二十億四千六百万円となった時期もございました。しかし、組合一丸となつて、面積二万四、五一平方メートルの保留地を売却し、三十三億七千八百万円の資金を

生み出すことで、借入金を返済することができ、事業完成への道筋が開けました。

地区の町名につきましては、組合のみならず、地域、行政との話し合いを重ねた結果、「上平中央」という町名案とし、上尾市議会でご承認いただいたところでございます。

なお、現在の進捗率は、九十九・六パーセントであり、本年十月には、組合解散の予定となつております。

いよいよ終盤を迎えた、上平第三特定土地区画整理事業でございますが、北上尾駅から一キロメートルという利便性の良さや、住環境の整備により、地区の人口は、平成元年には一、三四五人でございますでしたが、平成二十六年には二、七一二人と、約二倍に増加しております。

上尾市全体の人口について、平成元年と平成二十六年を比較しますと、約一・二倍でございますので、いかに、この地区の人口が急増しているかが分かります。

これは、上尾市インテールズ戦略のひとつとして「子育て世代の若い家族を上尾に呼び込む」という取り組みへの、目に見えた成果であり、上平第三特定土地区画整理事業の完了は、上平地区だけでなく今後の上尾市の発展に、大きく寄与していくものであると考えております。

◎図書館本館の建設用地の選定は「島村市長が上平に在住しているから」との理由で決定した訳ではありません。現本館跡地や上尾駅西口駐車場等も検討しましたが、立地条件等、

総合的に判断をして上平地区に決定した経緯があります。

新図書館の建設予定地は、現在の図書館本館から、二キロメートルの距離にあります。

この二キロメートルが遠いとの主張は、建設見直しの理由には、ならないと考えます。

上平地区に転居された皆さんにお話を伺うと「便利で暮らしやすく、人の温かさを感じる地域」との感想を寄せられる方が多い様に感じております。

地域全体が頑張っているからこのような意見が生まれてくると信じています。

私は、上平地域発展に全力を尽くします。

これからも、深山たかしの議会活動にご理解とご協力をお願いします。